



Rainbow letter

2019.8
No.20

日本周産期メンタルヘルス学会・ニュースレター

第115回日本精神神経学会学術総会報告

2019年6月20日～22日に新潟で第115回日本精神神経学会学術総会が開催され、「さまざまな精神神経疾患の妊娠・出産・授乳への対応」と題し、当学会推薦シンポジウムが開催されました。初めに筑波大学の根本清貴先生が、自験例も交えながら統合失調症の妊娠や授乳に関する臨床的課題をご発表され、次に私（菊地）がうつ病と双極性障害についての発表をし、次いで兵庫医科大学の清野仁美先生が、なぜ強迫が生じるのか周産期の心性に触れながら強迫症とパニック症についてご発表されました。木村病院の木村大先生が、周産期における摂食障害の特徴や経過、治療について、また木村病院の産後の地域包括ケアシステムについてご発表され、最後にむさしの国分寺クリニックの加藤昌明先生が、妊娠前・妊娠中・出産後にすることに分けて、てんかん合併妊娠の医療的支援についてご発表されました。一人20分と限られた時間ではありましたが、密度の濃い、大変勉強になるご発表でした。

今回のシンポジウムは、学会3日目の朝8時10分からの開始であり、どの位人が集まるか...と思いましたが、開始20分前にはまばらだった会場も、いざ始まってみると満席で、質疑応答も活発になされ大盛況でした。



前日の6月21日には、新潟駅前のイタリアンで恒例の意見交流会が開催されました。今回は、特別ポスター（学会紹介コーナーでのポスター発表）を作成した情報関連委員会の主催ということで開催されましたが、先生方と共に和気あいあいと楽しい時間を過ごしました。（評議員/菊地紗耶/東北大学病院精神科）

第115回日本精神神経学会学術総会では、一般演題に加え、関連団体の活動、特徴などをご紹介する「特別ポスターコーナー」が新たに設けられました。情報関連委員会で企画検討して、学会の概要や周産期メンタルヘルスの歴史、各地での取り組みや専門外来などを紹介したポスターを作成しました。また、産婦人科医や助産師からのメッセージをお寄せいただき掲載しました。



第16回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会

日程：2019年10月26日（土）・27日（日）

場所：千葉大学亥鼻キャンパス 医学部記念講堂他

<http://www.chiba-u.ac.jp/access/inohana/index.html>

大会長：渡邊博幸先生（千葉大学社会精神保健教育研究センター特任教授）

テーマ：「こころを守る、支える、育む」

詳細は、学会Webサイトにて随時更新してお知らせしています。

◆大会長より一言

大会が、充実した内容になるよう、また、様々な点で参加者の皆様に満足していただけるよう、運営事務局一同、鋭意準備を進めております。



事務局より

学会誌次号Vol.6（2020年春頃の発刊予定）への掲載対象となる投稿期限は、2019年9月17日（火）までといたします。ご投稿いただきます際は、投稿規定をご確認の上、締切日までにお送りください。多くの会員の皆様からの投稿をお待ちしております。

（投稿記事募集！）

当学会はこれから会員の皆様にとって有用な情報をニュースレター

で取り上げていきます。詳しくは学会Webサイト(<http://pmhj.jp/index.html>、QRコード(→))

または、学会事務局(mental-1@pmh.sakura.ne.jp ←注:アドレス変更しています!)まで。

*企画・発行:日本周産期メンタルヘルス学会 事務局・情報関連委員会

